

## 抗議文

6月8日の米原子力潜水艦ハンプトンの横須賀入港に強く抗議する。横須賀基地は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦ハンプトンは、ただちに横須賀港から出て行くこと要求する。

米海軍第7艦隊司令官 ロバート・トーマス少将 殿  
在日米海軍司令官 マッシュ・カーター少将 殿  
米海軍横須賀基地司令官 デービット・グレニスター大佐 殿

神奈川県労働組合総連合  
新日本婦人の会神奈川県本部  
神奈川県商工団体連合会  
神奈川県平和委員会  
安保廃棄神奈川県統一促進会議  
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会  
原水爆禁止神奈川県協議会

6月8日午前10時06分、原子力潜水艦ハンプトンが横須賀基地に入港した。原子力潜水艦の入港は今年8回目で、原子力艦の入港は、通算905回となった。

原潜ハンプトンは、ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦で、核・非核両用の巡航ミサイルの装備が可能な原子力潜水艦である。

2007年、原潜ハンプトンの乗組員が、毎日おこなうべき原子炉の安全確認を1ヶ月以上にわたって実施せず、ずさんな安全管理のもとで日本の海を航行していた。さらに、そのことを隠すために記録を改ざんする重大問題まで起こした原潜である。

「戦争はしない」と決めた憲法9条を持つ日本で、戦争のための軍艦が入出港を繰り返している。これは、米軍が東アジアでの軍事行動を強化していることを意味し、アジア・太平洋の平和と安全にとって大きな害悪をもたらしている。米軍艦船による東アジア・太平洋での日米共同演習などの軍事演習は昨年を見ても増えている。原潜ハンプトンの横須賀基地入港は、軍事的害悪をもたらすものであり断じて許されない。

福島原発事故から4年3ヶ月が過ぎた。未だ12万人が避難生活を余儀なくされ、放射能被害に苦しめられている。首都圏や横須賀基地を含む三浦半島で巨大地震の発生確率が高まり大地震による原子力艦船の原子炉事故の可能性が増大している。米軍は、原子力艦船の「安全神話」を押しつけ、まともな地震や津波に対する対策を講じようとしていない。このように県民要求に答えず原子力艦船の横須賀入出港をくり返すことは断じて許されない。原子力艦船の原子炉事故対策について明らかにすることを強く要求する。

米原潜の核兵器搭載、核持ち込みも重大である。核密約によって核兵器が横須賀に持ち込まれていたことはすでに明らかになっている。原潜ハンプトンが、核兵器は積んでいないことを証明すると同時に、核密約はただちに破棄することを要求する。

横須賀基地は原子力艦船の母港でない。原子力潜水艦ハンプトンは、ただちに横須賀から出て行くこと。

以上を強く要求する。